

早生で麦飯が白い大麦新品種「シンジュボシ」

研究のねらい

従来東北の大麦は飼料用として出荷される割合が高かった。しかし、飼料麦制度の廃止により、食用への転換が迫られ、食用としての品質の高い大麦品種が求められている。そこで、寒冷地向けの早生で麦飯にしたときの色が白い大麦新品種の育成を図る。

研究の成果

「シンジュボシ」は、平成14年度に東北農業研究センターにおいて育成された品種である。

早生で、千粒重が大きく、外観品質が優れる。

耐寒雪性はやや弱い根雪期間80日まで耐え、穂発芽性はやや難である。小さび病抵抗性は中であるが、うどんこ病にはやや強い。

精麦後の白度及び炊飯後の白度は共に高く（図1、2）、見た目の良い麦飯が炊ける。また、ポリフェノール含量が少なく、炊飯後の褐変が少ない。



図1 シンジュボシ（左下）の麦飯の色
左上：ミノリムギ 右上：シュンライ
右下：べんけいむぎ

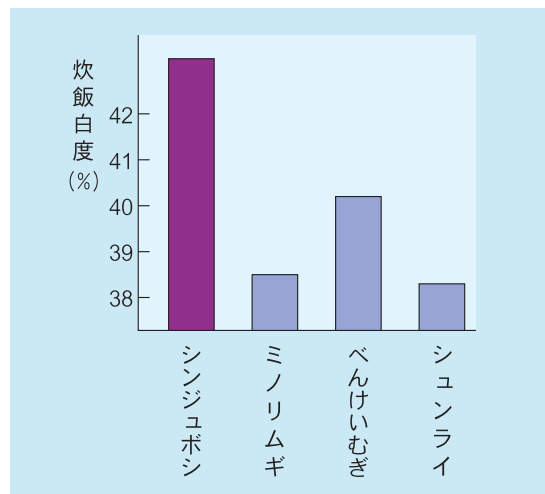


図2 シンジュボシの炊飯白度
東北農研 55%搗精

表1 シンジュボシの生育及び収穫物調査成績（東北農業研究センター平成8～13年度条播栽培）

品 種 名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏 程度	子実重 kg/a	対標 準比 %	リットル 重 g	千粒重 g	外観 品質
シンジュボシ	5.14	6.27	92	4.6	412	0.6	50.6	93	649	37.9	3.4
ミノリムギ	5.15	6.29	90	4.9	451	0.9	54.6	100	638	34.6	4.7
べんけいむぎ	5.15	6.29	90	4.1	399	0.4	45.1	83	644	36.1	4.5

注) 倒伏程度は0:無～5:甚、外観品質は1:上上～9:下下

成果の利活用

宮城県で奨励品種に採用されている。

根雪期間80日以内の東北地域に適応し、食用としての品質の高い大麦生産が可能となる。

多肥栽培は倒伏、うどんこ病、硬質粒の発生が多くなるので避ける。